

■屋代弘賢 国学者，考証学者，蔵書家。書籍や古器物を収蔵，幕命で「寛政重修諸家譜」など，専ら蒐集編纂事業。

やしろひろかた

宝暦事件・・1758＝ 幕臣佳房(忠大夫)の子として神田明神下で出生。

大岡忠光没・1760＝ 2歳： 祖父(郷助詮房)・祖母および父母ともに書家で，弘賢も幼年から書道を学習した。

加賀千代句集1764＝ 6歳：幕府の書道師範森弄祥に師事，書道を研鑽する。

意次側用人・1767＝ 9歳：

田沼意次老中1772＝14歳：

雨月物語刊・1776＝18歳：

源内獄中死・1779＝21歳： 家督を相続。

天明大飢饉始1782＝24歳：西丸台所に出仕，

蝦夷初調査・1785＝27歳：

田沼意次失脚1786＝28歳：本丸附書役，
弘賢の書道は持明院流をよくし，和歌を冷泉為村・為康らに就学し，国学を塙保己一・松岡辰方らに学んだ。保己一の「群書類従」の編集・校訂にも大いに協力した。

異学の禁・・1790＝32歳： 柴野栗山の書記となり，

アスマン来日・1792＝34歳： 栗山に従って畿内に赴き，社寺の調査に従事，奈良薬師寺東塔の相輪擦銘の拓本を採取した。「道の幸」はこの時の紀行文である。

松平定信引退1793＝35歳：*松平定信に用いられて奥右筆所詰となり，百俵を賜る。

オランダ正月・1794＝36歳：
若い頃より書籍の蒐集に努め不忍池畔の居宅に不忍文庫と称する書庫3棟を建て，そこに多くの書籍・参考古器物を収蔵したこともよく知られ，
古事記伝・・1798＝40歳： 「不忍文庫書目録」成る。

アメリカ船来航始1803＝45歳：

イザナ来航・1804＝46歳：奥右筆所詰・勘定格百50俵となる。「藩翰譜続編」編集に加わり，

青洲麻酔手術1805＝47歳： 幕府の対露返書を清書した。

・・・・・1810＝52歳： 「古今要覧稿」の編集の命を受け，この仕事は没するまで続けられる。

ゴッポン拿捕 1811＝53歳： 朝鮮返簡御用を命ぜられ，

高田屋拿捕・1812＝54歳：

黒住教・・・1814＝56歳：*「寛政重修諸家譜」編集の大事業に参加することになった。

・・・・・1815＝57歳： 一方，狩谷掖斎らとともに，求古楼展観の会を開いて古写本・古版本の研究に努め，

杉田玄白没・1817＝59歳：「参考伊勢物語」成る。

水野忠成老中1818＝60歳：

蝦夷地直轄終1821＝63歳：

シボルト鳴滝塾1824＝66歳：幕府より精勤を賞せられる。滝沢馬琴らとともに古書画古器材を持ち寄りこれを考証する耽奇会に参加，
異国船打払令1825＝67歳：*自ら中心となり夷國會を開催，奇事奇聞を書記して披露するなど積極的な学芸活動を行なう。各地の民俗を調査するため「諸国風俗問状」の発送を行なったのも弘賢らの仕事であった。

日本外史・・1827＝69歳： 1万石以上の大名の家系と事蹟を調査し記録する「千城録」の編集にも携わる。

富籤流行・・1830＝72歳：

その著わすところも膨大なものにのぼっている。友人も多く，柴野栗山・成島司直・奈佐勝臯・大田南畝・近藤重蔵・立原杏所・小宮山楓軒・狩谷掖斎・小山田与清・鷹見泉石・渡辺畢山らと交遊している。

大塩平八郎乱1837＝79歳：

蛸社の獄・・1839＝81歳：

天保改革始・1841＝83歳： 没した。
「葦手書考」「池の藻屑」「かつみ考」「金石記」「古今要覧稿」「不忍叢書」「池底叢書」「池底の玉藻」「弘賢随筆」「松虫鈴虫考」「道の幸」「輪翁画讃」「輪池叢書」「輪池屋代翁手録書論」など多数。

「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，